

デジタル地域通貨で地元消費を通じた支え合い 「イチカプラス」がはじまります

令和4年11月30日

天 理 市

天理市では、8月1日からデジタル地域通貨「イチカ」の運用を開始し、これまで生活支援と地元店舗応援のため、市民へのイチカの送付やプレミアム付イチカの販売などを実施してきました。

イチカのさらなる取組として、12月1日(木)から、“地元消費が地域の支え合いにつながる「イチカプラス」”の事業を開始します。これは、加盟店の中から賛同される店舗を募り、イチカによる売上の一部をこども食堂やフードバンクなど支え合い活動を実施している団体にご寄附いただく事業です。

併せて、12月1日から、このイチカプラスの促進事業とイチカのチャージカードの販売もはじまります。

これを受けて、並河市長がチャージカードの購入と、イチカプラス参加店での買い物を実演します。

※取材のご検討いただきますようよろしくお願いいたします。

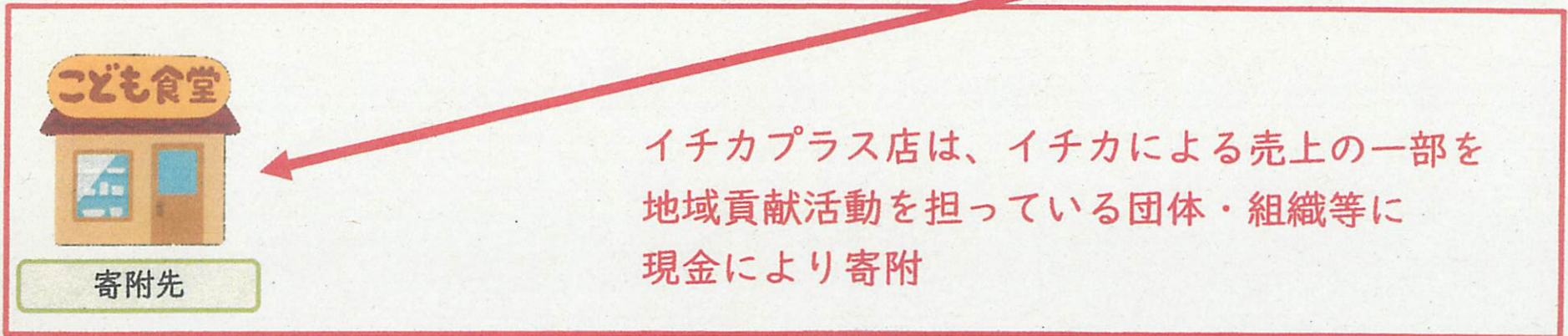
1. 日 時 12月1日(木) 昼12時から
2. 場 所 天理市観光物産センター(コフフンショップ)(天理市川原城町816)でチャージカードを購入後、菓子工房マリアージュ(天理市田井庄町565)で買い物
3. 参加者 こども食堂・おてらおやつクラブ等、支援先団体の関係者
4. 注意事項
 - ・取材いただける場合は、事前に下記担当へご連絡ください。
 - ・新型コロナ感染防止のため、取材の際はマスクの着用や手指等の消毒をお願いします。
 - ・店舗等に駐車スペースはございません。お車でお越しの際は、駅周辺の駐車場をご利用ください。

本件に関する連絡先

天理市役所 市民総活躍推進課
課長 前田 恵美子
担当 飯田 哲也
TEL 0743-63-1001(内線 514)
FAX 0743-62-5016
E-mail: katuyaku@city.tenri.nara.jp

イチカプラスの概要について

- イチカプラスとは、地元消費が地域の支援活動へと還元される仕組みを構築し、支え合いのまちづくりを支える事業
- イチカプラス店とは、加盟店のうち、イチカプラス事業に賛同し、寄附にご協力をいただける店舗



イチカプラス店

令和4年11月29日現在

番号	店舗名	店舗所在地
1	焼肉一番	天理市川原城町836
2	天理すぎ乃	天理市川原城町229
3	りきいち	天理市川原城町817
4	セブン-イレブン天理成願寺町店	天理市成願寺町346-3
5	Recycle+ (リサイクルプラス)	天理市別所町104
6	菓子工房マリアージュ	天理市田井庄町565
7	稲田酒造合名会社	天理市三島町379
8	富澤文具店	天理市三島町320-2
9	吉田ニ福堂	天理市丹波市町12-5
10	FOOD TRIP	天理市川原城町114
11	天理市観光物産センター(コフンショップ)	天理市川原城町803
12	中村精肉店	天理市田部町510-17
13	セブン-イレブン天理丹波市店	天理市丹波市町472
14	セブン-イレブン天理稲葉町店	天理市稲葉町3-1
15	倭の里	天理市勾田町163-1
16	RUGBY PRO SHOP Ryu	天理市御経野町37-5
17		
18		
19		
20		

イチカプラス事業 支援先一覧表

令和4年11月時点

	支援先	代表者	備考
1	おてらおやつクラブ	代表理事 松島 靖朗 理事 桂 浄薫	
2	天理市内のこども食堂 (19団体) <ul style="list-style-type: none"> ・ 天理こども食堂 ・ 丹波市こども食堂 ・ なかよし食堂 ・ ふれあい食堂前栽 ・ 町力食堂 ・ 夢づくり食堂 ・ やまのべ多世代ふれあい食堂 ・ ニコニコ食堂 ・ あさひこども食堂 ・ どうけいこども会 ・ あすならホーム柳本こども食堂 ・ あつあつごはんを食べる会 ・ NPO法人 児童支援グループ わたげ ・ 柳本こどもあさごはん部 ・ キッチンぽかぽか ・ あしつこども食堂kitchenきのね ・ まごころゴハン ・ ひなた子ども食堂 ・ あいせいほのぼのキッチン 		・天理市社会福祉協議会を通じて各こども食堂に支援を行うことができます。
3	フードバンク天理	代表 名倉 幸子 副代表 渡辺 一城 副代表 市本 貴志	

- 上記以外の支え合い活動を行っている団体(支援先)に、支援を希望される場合は、支援先からの申出が必要です。
 また、支援先は、市が定める要件を満たしている場合に対象となりますので、お手続きの方法等について、天理市市民総活躍推進課までご相談ください。

イチカプラス促進事業

- 対象 「イチカプラス」対象店舗で対象期間中にアプリ決済を利用した人
- 要件 「イチカプラス」対象店舗において、アプリ決済合計5,000ポイント利用ごとに500ポイント付与
- 対象店舗 「イチカプラス」に参加するイチカ加盟店
- 対象期間 令和4年12月1日から令和5年1月20日まで
- ※ただし、予算の範囲内で実施し、上限に達し次第終了となります。
- 付与方法 付与が確定した利用者のアプリアカウントに直接付与
- 付与時期 令和5年2月1日頃

イチカチャージカード販売場所

販売開始

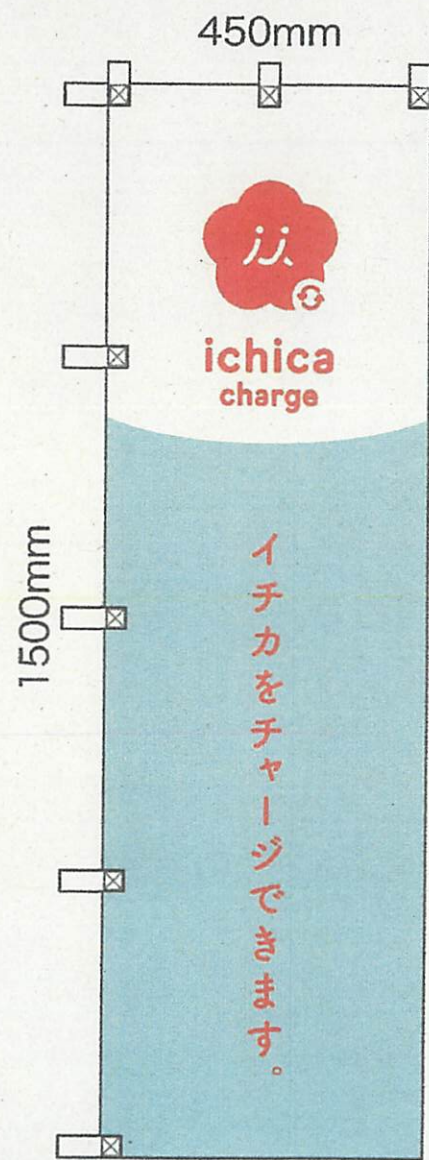
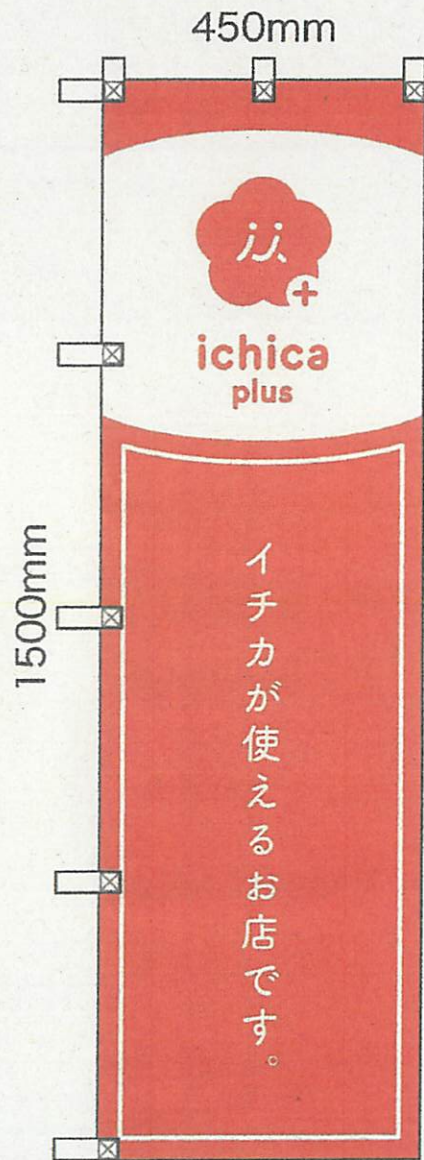
令和4年12月1日

販売場所(令和4年11月21日時点)

- ・ 天理市役所(4階市民総活躍推進課)
- ・ 天理市産業振興館
- ・ 市立 二階堂公民館
- ・ 市立 櫛本公民館
- ・ 市立 柳本公民館
- ・ 市立 福住公民館
- ・ 天理市商工会
- ・ 天理市観光物産センター(コフフンショップ)

チャージカードの種類

- ・ 1,000ポイントチャージカード(1,000円分)
- ・ 5,000ポイントチャージカード(5,000円分)



GOOD DESIGN AWARD

2022

年度を選択

特別賞を選択

[詳細検索を表示](#)

GOOD DESIGN GRAND AWARD | グッドデザイン大賞



ツイート



いいね!



受賞対象名	地域で子ども達の成長を支える活動 [まほうのだがしやチロル堂]
事業主体名	アトリエe.f.t.、合同会社オフィスキャンブ、一般社団法人無限
分類	コミュニティづくりの取り組み・活動
受賞企業	アトリエe.f.t.(奈良県) 合同会社オフィスキャンブ(奈良県) 一般社団法人無限(奈良県)
受賞番号	22G191474
受賞概要	2022年度グッドデザイン賞受賞概要

受賞対象の概要 ※掲載している情報は、受賞当時の情報のため、現在は異なる場合があります。

概要

貧困や孤独といった環境にある子ども達を、地域みんなで支える魔法の駄菓子屋です。入口におかれたガチャガチャには、通貨の価値を変える魔法が仕掛けられています。「支援対象を限定しない」と発想を転換することで、支援が必要な子ども達にアプローチする機会と、大人が日常生活の延長で寄附をする機会の増加を同時に実現しました。

デザインのポイント

- 1.誰もが来店しやすい「駄菓子屋」として場を開くことで、孤独や貧困に悩む子ども達の利用を促していること
- 2.1枚100円の価値がある店内通貨「チロル札」1枚で、子ども達は通常500円のカレー等が食べられること
- 3.「魔法」の仕掛けである「寄付」を、飲食や買い物に付随させ日常の延長でのサポートができること

プロデューサー

吉田田タカシ、坂本大祐

ディレクター

吉田田タカシ、坂本大祐

デザイナー

吉田田タカシ、坂本大祐、株式会社コーバ



詳細情報

<https://tyroldo.com>

利用開始

2021年8月20日

価格

10円（来客者の購入内容による）

販売地域

日本国内向け

設置場所

奈良県生駒市元町1丁目4-6

受賞対象の詳細

背景

日本では、子どもの約7人に一人が貧困状態にある（厚生労働省国民生活基礎調査）といわれています。そんな子ども達や保護者に、無料や安価で栄養のある食事や団欒を提供する「子ども食堂」が全国的に広がってはいるものの、孤独や貧困に苦しむ子ども達が利用しやすい場所なのかという疑問を感じていました。知らない人に「困っている」「お腹がすいた」と助けを求めることを恥ずかしく思っ躊躇する子、いどこで子ども食堂が開かれるのか調べられない子もいるはずだからです。この問題を解決するために、「困っている子ども達の居場所」といった直接的・限定的な表現ではなく、どんな子ども達も集まりたいとする目的を別につくり、支援が必要な子ども達が気軽に利用しやすい場所にすること。さらに活動を持続させるためには、行政等からの補助金等ではなく、子ども達を想う大人たちの想いが寄附という形で寄せられる仕組みが必要だと考えました。

経緯とその成果

福祉的な活動の多くは、貧困か否か、ひとり親か否かなどと対象者を分類しています。しかし、これでは自分事として受け止めてもらえず、アプローチできないこともあるため、「駄菓子屋」としてオープン。18歳以下の子ども達は、店内通貨「チロル」を使ってカレーや軽食を食べられる仕組みをつくりました。情報は主に小学生の口コミで広がり、土曜日や長期休暇になると地域内外から1日300人を越える来店があります。友達とゲームや食事をしたり、大学生スタッフに宿題を教えてもらったり、使い方も熟知されてきました。同時に、活動の賛同者も増え、店内で寄付付きのカレーやお弁当を買う人の他、駄菓子、店内で使う食器、食材やレシピ、絵本やおもちゃなど寄付をする人が絶えません。4月からはサブスク方式で寄附をする仕組みもつくり、夜は大人の飲食代の一部が寄附される「チロル酒場」も始まりました。確実に共感の輪が広がっているのを感じています。

仕様

18歳以下の子ども達は、まず一人1回100円で入口のガチャガチャを回して入店する駄菓子屋。カプセルには1枚100円の価値がある店内通貨「チロル札」が1~3枚入っていて、駄菓子を買うことはもちろん、店の奥にあるカウンターやテーブルスペースで通常500円のカレーや軽食を食べることができる。この魔法は大人の寄付が支える。水曜日と日曜日・祝日以外の11:00~18:00に営業。

どこで購入できるか、
どこで見られるか

奈良県生駒市元町1丁目4-6
[まほうのだがしやチロル堂ウェブサイト](#)
[まほうのだがしやチロル堂Instagram](#)
[まほうのだがしやチロル堂Face Book](#)

審査委員の評価

子どもが分け隔てなく集える場としての「駄菓子屋」。この場所だけの新しい貨幣価値「チロル札」。する側もされる側も気を遣い、程度を見極めることが難しい「支援」という課題を乗り越えるために、2021年10月にスタートしたチロル堂。この取り組みに賛同した小さな子どもを持つ5人の母たちが2022年7月、金沢に二号店をオープンさせた。初期投資の負担が少ない駄菓子屋という仕組み。チロル堂が全国各地に展開する日もそう速くなさそうだ。

担当審査委員 | [飯石 藍](#) [岩佐 十良](#) [田中 元子](#) [水口 克夫](#) [山阪 佳彦](#)



This Work by JDP is licensed under a [Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivs 2.1 Japan License](#).
Permissions beyond the scope of this license may be available at www.g-mark.org.

このページに掲載している情報は「クリエイティブ・コモンズ」<表示・改変禁止> 日版ライセンス2.1で公開されています。
このページの情報を二次利用する際には必ずこちらをご覧ください。

グッドデザイン賞は公益財団法人日本デザイン振興会が運営しています。

[サイト利用条件](#) [プライバシーポリシー](#) [クリエイティブ・コモンズについて](#) [お問い合わせ](#)

